

令和 3 年度 第 1 回京都市次代の左京まちづくり会議 摘録

【日 時】 令和 3 年 6 月 28 日（月）午後 1 時から 2 時 30 分まで

【場 所】 左京区総合庁舎 1 階 大会議室 A

【出席者】 ○委員 14 名《欠席者 4 名》

○左京区役所 10 名

【内 容】

1 開会挨拶

2 議題

（1）第 3 期左京区基本計画意見募集の結果について（資料 1）

＜委員＞ 今回のパブリックコメントでは、お母さんや若い人の声も届くようになった。特に、京都市の財政危機に関して、若い方の熱心な声を聞くことができた。パブリックコメントにどう対応していくかにも注意してほしい。

＜委員＞ 今回、200 件以上の意見が寄せられており、計画の発行後のアクションも注目されると思う。計画には具体例は書けないが、パブリックコメントでもらったアイデアを活かしながら、発行後に、各目標に沿って具体化できれば、区民の心をつなぎ留めることになると思う。

＜委員＞ 非常に細かく、たくさんの意見をいただいたため、機会があるごとに発信してほしい。民生児童委員会の会長会議や学校の会議においても、このような意見が出たことを伝えたいと考えている。

＜委員＞ 共感や賛同する意見が多かった。大変素晴らしい計画ができたと思う。

（2）第 3 期左京区基本計画（案）について（資料 2）

＜委員＞ 京都市の基本構想 2001 年～2025 年の中で、左京区基本計画は 10 年、10 年、5 年の期間で策定されている。今回の第 3 期は 2021 年～2025 年の計画としており、5 年後は次の 25 年を考える時期に入る。また、2050 年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」の実現に向けた転換点にあり、25 年前と 25 年後のちょうど中間点に立っている。2050 年には人口は 23%程度減る。左京区の減り方は他の区と比較しても少なくはないが、これからの 25 年間で京都も変わるため、その節目の最後の計画になる。

左京区は大学のまちとしてスタートしており、大学と地域のつながりが話題になっている。また、宝ヶ池の遊歩道を鹿が歩いている状況など、鳥獣被害がかなり深刻化しており、温暖化防止や自然との付き合い方は新しい段階を迎えている。京都観光に関しては、2000 年から 2011 年の東日本大震災までの間に、日本人が 4,000 万人から 5,700 万人、34%増え、その後日本人が少し止まった段階でインバウンド客が増えている。今は、コロナ禍の影響でストップしているが、2000 年代、2010 年代は左京区の観光客の状況も随分変わり、文化への関心も変わった。ロームシアタ

一京都、京都市京セラ美術館など、岡崎の界隈に大きな変化が起きている。様々な分野において変化が起きている。

【基本姿勢・要素「④なりわい」】

＜委員＞ コロナ禍でリモートワークが普及しつつある。中小企業が事務所を郊外に移転する動きや従業員が仕事と介護を両立したいニーズが増える等、働き方に対する常識が変わりつつある。今後、企業と連携して地域を活性化するには、地場企業と移住者や、新しい働き方を進めている人等との密な情報交換で、小さな成功例をつくっていくことが必要だと感じた。

【取組「3 自然と調和した都市基盤整備」】

＜委員＞ 通っている大学では、学生数人で空き家を借り、リノベーションをして住み、そこで農業もして生活している事例がある。そのような活動を広げるには、空き家をもっと学生に提供してもらえればいい。

＜委員＞ リモートワークが普及しつつあるため、人々は地価の安いまちに住むという選択ができる。その時に、交通の便が整備できれば、左京区に暮らしたい、根付きたいと思う方が増えるだろう。

【取組「4 防災・消防」】

＜委員＞ 地元では自主防災に取り組んでいるが、特に、避難所の運営では、一部の人に負担が偏り過ぎていると感じている。自主防災組織の役員には高齢の方も多い。そこで、行政には、コロナ対策の消毒液や体温計の配備、物質的な援助の他、避難所運営のバックアップ体制が必要だ。他地域では、避難所運営シミュレーションゲームが行われていると聞いた。そのような取組や事例を、区役所のホームページにアップしていただければ、各学区で実施できると思う。

＜委員＞ 地域の方が活動しやすくなる側面支援や、世代交代を進めるような、新しいロールプレイができないか検討してもいいと思う。

【取組「6 観光」】

＜委員＞ コロナ禍前は観光客が増えすぎて、バスの混雑やゴミ問題、マナー違反の問題など「観光公害」が起きた。基本計画で謳われている「持続可能な観光」を実現するには、市民生活と折り合いをつける必要がある。観光の推進について、それぞれ地域で自分たちが目指したいところを考えればいいが、それに対する行政のサポートが求められる。たとえば、祇園では地元で舞妓さんお触り禁止の看板を立てたなど、そのような区民の願いや気持ちに対して、行政の担当者が理解して対策を考えてほしい。

＜委員＞ 観光業に従業している立場としては、一刻も早く観光客に戻ってきてほしい気持ちはある一方で、リピーターががっかりしない京都であってほしいと考えていた。観光振興は区民の生活を配慮して、バランスを取りながら進めてほしい。例えば、岡崎地域ではイベントやお祭りが多く、訪問者は楽しめるが、住民にとっ

ては子どもを遊ばせる場所がなくなってしまうのではないか。

【取組「8 大学のまち・学びのまち」】

＜委員＞ どんな取組においても、若い人の力が必要。左京区では「左京×学生 縁ねっと」という事業があり、色々な福祉活動を重点的に行っている。関西学生ボランティアには 2800 人くらいが登録しており、災害が起こると来てくれる。しかし、担当の先生も異動され、学生だけでは運営が難しいため、行政にもっと関わってほしい。

【取組「9 子どもはぐくみ」】

＜委員＞ 京都市は子育てしづらいという意見はよく聞いている。住居費が高く、市内の公園も満員で、車も停められないところもある。実際、公園に行きたい場合は、車で京丹波や丹後など京都府の他のところや滋賀、奈良に行かざるを得なかった。例えば左京北部で、丹波などにあるような子どもを遊ばせる広い自然を生かした施設ができれば、左京区内で遊ぶ需要も増えると思う。

＜委員＞ 京都縦貫自動車道のおかげで、ある人は自宅から 25 分で丹波自然運動公園に行くことができる。左京区は花脊リゾート山村都市交流の森の施設もあり、中心部から花脊に 25 分程度で行くことができればいいと思う。

＜委員＞ 海外で子育てした経験があるが、海外のオープンスペースの豊かさは実感した。遊具がなくても、広くて安全なスペースさえあれば、子どもたちは元気よく楽しんで遊べるし、親も安心して遊ばせる。幸い左京区には自然豊かなところがあり、アクセスの問題さえクリアできれば、それが左京区の魅力や強みになる。

【取組「11 障害者福祉」】

＜委員＞ 障害者には身体的障害と心の障害の方がいる。左京区では、左京こころのふれあいネットワークがあり、病院や施設、作業所、行政などが一体となって障害者の方々を支えている。ホームページで構成団体を見ると、左京区には日本で一番たくさん心の障害のある方の病院や施設があるようだ。

令和元年の左京区誕生 90 周年の時、区役所の正面玄関に、記念バッジをもとに作成したお花のオブジェが半年間くらい飾られていた。それは障害者の方々が 10 月に開催された「心ときめき芸術祭」で作ったものだった。今年も 11 月に「心ときめき芸術祭」を開催したく、また心を寄せてほしい。

＜委員＞ 障害を持った方々の社会参加を支援するというのは、一番大きなテーマだ。計画を通して考えていく。

【取組「12 地域コミュニティ・安心安全」】

＜委員＞ 左京区の外国籍市民数は 7000 人ぐらいで、京都市で 2 番目に多い。留学生はせっかく京都に来たのだから、地域活動にもっと参加してほしい。

＜委員＞ 大学がリモート授業に切り替えたため、学生は自宅にいる時間が多く、地域との関わりが増えた。この間、遅刻した学生に理由を聞くと、隣の家にスズメバチ

がいたため助けていたそうだ。

＜委員＞ 特に引越ししてきた学生や海外の方など、地元を離れて来た方は、困りごとがある時にどこに行けばいいのかわからないことが多いと思う。その時に区役所に行けばわかるということになれば、ここで交流も生まれ、疑問に答えてもらえる安心の場にもなり、区役所の存在感も大きくなるのではないか。

【北部山間地域】

＜委員＞ 基本計画に北部山間地域のことを課題として項目を挙げられているのは今回が初めてだ。北部地域の住民は非常に期待感を持っており、特に南部と北部の交流促進への期待は大きい。

実際、今年3月から左京区役所の会議室やロビー等を活用して、北部山間地域の魅力を知っていただくことを目的に、左京キラリ市を実施した。次回は7月29日に予定しており、継続的に年に3回程度実施してほしい。北部地域では、山菜は壊滅的な被害を受けている。そこで防護柵をつくり、山菜を復活させる取組も行っている。北部山間地域の魅力向上については、皆さんにご協力を賜りたい。

しかし、北部へのアクセスが悪い。30～40年前に比べれば改善されているが、初めての訪問者にとっては厳しいアクセス状況である。花脊峠トンネルの実現については、平成26年京都市会にて全員一致で請願が採決されたが、市から国へ計画を早く出してほしい。

＜委員＞ 中山間地域という素晴らしい資産があるが、交流不足の課題があり、コロナ禍に直面したことで、より顕在化したと思う。資源は持っているだけでなく、それを活かすことが大事である。

＜委員＞ パブリックコメントの中に「コロナ禍で就農希望者が増えている」と大原学区の方から意見が寄せられた。

＜委員＞ 確かに若干だが、そのように感じている。19年前に京都初の小中一貫校としてできた花脊小中学校は、当初100人の生徒確保が必要だったが、実際は20数名しかいなかった。でも、今年は46名で、来年も僅かずつだが増える見込みである。

＜委員＞ 左京区では大原、花脊の変化を感じ、右京区でも子どもたちが増えるのではないかと固唾を飲んで見守っている。もっといろんな取組を行いながら、左京区の子育て環境をより良くしたい。

＜委員＞ 大原でイベントや体験事業に取り組んでいるが、コロナ禍で来られる方が増えている印象がある。やはり、地域に対する関心が高まっていることは肌で感じる。これを機に、里山バブルに終わらず、左京のファンをつくっていきたい。

＜委員＞ 京都市の農業委員会に関わっているが、本日も広島の方から新規就農者の問い合わせがあった。また、北部の新規就農者13人の内、12人が一生懸命頑張っておられ、その子どもたちのおかげで、大原の小中一貫校が継続している状況だ。その方々がいなければ、小中学校は消滅してどこかに統合されていた。

我々は、限界集落の課題を改善するために、農地の借り手と貸し手のマッチングや市への地区計画の緩和を要請した。実際、大きな法人の職員はほとんど他県から通勤されているが、できるだけ大原の住民になってもらい、子どもには地域の小中

学校に通ってもらい、市や区の税金も納めてもらえるように働きかけている。今まで大原の住宅を買う場合、ほとんど畑や田んぼが付いており、農業委員会の三重申請がクリアできなかったが、今は買うことができるようになった。

【計画の推進に向けて】

- ＜委員＞ 計画の実現とともに計画の伝え方、実現を後押しすることが重要。左京区にはまちづくりのプレイヤーがたくさんおり、その方々を後押しする動きもある。まちづくりアドバイザーや様々な団体と連携して進めていければと思っている。また、左京区は外国人比率が高く、今後も外国籍市民は増えると考えている。そのため、優しい日本語版の作成や ICT の活用等、外国籍市民に伝える工夫が重要である。
- ＜委員＞ ICT の活用については、若い世代は対応できるが、使えない世代への配慮も必要。基本計画もウェブと紙媒体で配信して、すべての区民が把握できることが理想である。
- ＜委員＞ 絵に描いた餅にならないように、どのような分野のどのような人たちに、本計画を周知できるか、その人たちがその一員となってこの計画を履行することができるかが気になる。
- ＜委員＞ この計画をどう実現するかが大事と感じている。多くの大学生は4年間この計画の存在を知らずに過ごしている。例えば、ゴミ分別のルールを調べた時、誰もが区役所のホームページを見ることになるので、そこでこのような計画があることを意識させるなど、そのようなタイミングで基本計画を紹介してはどうか。
- ＜委員＞ 基本計画は非常に良く、わかりやすいと思う。特に、区民の取組や協働の取組がポイントだ。区民の取組について、学生や外国籍市民の方にもっと地域活動に関わってもらいたい。今後の計画の進捗管理については、ぜひそのような観点でも評価してほしい。

【計画全般・その他】

- ＜委員＞ 素案にたくさんの写真を採用することで、ビジュアル的に分かりやすくなった。
- ＜委員＞ 既に2021年に入っているので、一日も早く基本計画を発行してほしい。
- ＜委員＞ 小中学校の子どもたちにこの計画をどのように伝えるか、教育分野にも浸透させていく手立てを考える必要がある。左京区の特性として、自然が豊かな北部という宝物や伝統や祭事もあり、本当に恵まれたところだ。今は、自然や何に対しても、自分とは違う距離を置いた対象物としてすべてを見てしまう習慣が、この社会に生まれている。左京の子どもたちに教える時に、美しいものとして距離を置く対象にするのではなく、生活の中で工夫して自然に関われば、必ず自然は応えてくれる。山には災害が発生することもあるが、里山生活に代表されるように、川や山や森林がある自然は厳しいが、すべて私たちの命を育んできたものだという認識が必要だ。大原の山を見て、自分とつながっているということを、左京区の子どもたちに示していきたい。自然は美しいという見方もあるが、自然が私たちを育てたということを、生活を通して感じた時に、自然への尊厳を感じると思

う。

＜委員＞ この基本計画の策定途中にコロナ禍に見舞われ、それに追い打ちをかけるように財政危機にも見舞われた。場合によっては中身の変更を迫られる場面もあった。コロナ禍は世界を一変させたところがあるが、ここで議論してまとめた内容は普遍性を持つものだったことは、素晴らしいと感じた。そろそろポストコロナのことも考えなければならないが、ここで議論されたことは、これからの左京区が目指す将来像の根幹にあたる部分であり、コロナ禍の影響に関係なく揺るがないものだ。

素晴らしい計画ができ上がったので、つくって終わるのではなく、区民や事業者の皆さんが区役所と一緒に、左京区の魅力を存分に活用してそれぞれの立場で発信することが、左京区を活性化していくのだと思う。

（3）その他

＜区職員＞ 今後のスケジュールとしては、7 月中に市長決定を行い、8 月中に印刷物を届けたい。

4 閉会

以上